

令和5年度 学校評価 春日部小学校パワーアッププラン

1 目標・方針

中期的な学校運営の目標・方針	心豊かにつながり、夢と勇気を持って挑戦する春日部っ子 ～みつめ、みだし、みらいを創る～ ・学ぶ感動、集う楽しさ、働く喜びのある学校 ・保護者・地域社会の期待に応え信頼される学校 ・地域の「人」「自然」「もの」を活かした教育活動を大切にする学校
本年度の重点目標	・国語科を中心に主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくり ・「自己有用感」「自尊感情」の育成による安心して学べる環境づくり ・児童・保護者・地域の願いや期待に応える地域とともにある学校づくり ・はるべの郷の「人」「自然」「もの」を活かした教育活動の推進

2 自己評価（達成状況 A:優れている B:おおむね良好 C:やや改善 D:要改善）

領域	観点	評価項目	達成状況	学校の取組状況と改善の方策
学校運営	危機管理	○新型コロナウイルス並びにその他の感染症への予防のための適切な対応と指導 ○いじめの未然防止、早期発見、早期対応や不登校ゼロを目指した取組	A	<ul style="list-style-type: none"> 健康観察カードを活用し、検温を中心に家庭における児童の健康観察の徹底を図ったため、大きな感染拡大はなかった。今後も引き続き、環境を整えるなど感染予防対策を行う。 児童の人権・命を守るために、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等の指導を徹底したり、SNSなどを含む情報モラル教育の充実を図り、早期発見、早期対応ができた。 安全、防災教育においては、年間通して訓練（不審者・引き渡し・火災・地震）を行った。今後も、様々な想定で実施し、児童、職員、保護者が実践的対応力を備えていく必要がある。 毎職員会議において気になる児童の様子を職員間で交流しながら共通理解を図り、指導方法を統一して全職員で組織的に支援できた。また、教育支援センター（レインボー教室）等の専門機関とも連携を図った。
	保護者・地域住民との連携	○学校運営協議会「コミュニティ・スクール春日部 かすかべっ子はぐくみたい」の運用による地域とともにある学校づくりの推進（ふるさと学を含む） ○あいさつ運動や基本的な生活習慣の確立 ○家庭学習習慣や家庭教育の充実を図る取組	B	<ul style="list-style-type: none"> 生活科や総合的な学習の時間で、ゲストティーチャーとして地域の方を招くなど、春日部の「人」「自然」「もの」について学ぶことで、ふるさとへの愛着が深められるようにした。ふるさと学以外のサポートボランティアも募集し、家庭科のミシンの学習時には、きめ細やかに支援していただいた。恒例の川活動や枝豆の収穫では、毎年地域の方々とつながりが持てている。 認定子ども園との交流や中学校との交流を行い、連続した学びを目指した。5・5交流が数年ぶりに復活し、良い交流の場が持てた。 あいさつ運動は、学校・家庭・地域と協力しながら広めていった。繰り返し月目標に位置付け、星で頑張りを視覚化したり、毎月朝会でふりかえりを発表し頑張りを認め合えるようにしたりした。地域でのあいさつを更に高めたい。 通信などを使い、各家庭で学習や家庭読書の習慣が定着するよう日頃の取組や声掛けなどの工夫をした。また学期毎に「ぐんぐんカード」で、生活時間を自分でチェックできるように取り組んだ。
教育課程	指導方法の工夫改善	○自らの思いや考えが表現できる児童の育成に向けた国語科を中心とした授業改善 ○主体的・対話的に学ぶための工夫（単元を貫く言語活動の設定、思考スキル）による深い学びの実現 ○専門性を生かした、高学年での教科担任	B	<ul style="list-style-type: none"> 児童から様々な考えが出てくるような授業展開や課題を設定し、友達の考えを聞きたいと思って対話ができるように心がけた。授業では児童同士で自然と対話する姿が多く見られるようになった。 自分の思いを声に出すことと言葉の力の獲得の2点から音読に取り組んだ。しかし、積極的に自分の思いを表に出すこと、自分の考えを分かりやすく相手に伝えることに課題が残った。そのため、引き続き音読により文章を読み取る練習、語彙の獲得を続けていく必要がある。 思考スキル（考える技）では、「比較、理由づけ、関係づけ」など各学年5項目にしぼることで授業の中で積極的に活用していった。児童は比較して考えたり、自分の考えに理由付けしたりと思考スキルを使えるようになってきている。しかし、論理的に筋道立った説明には至っておらず、今後も継続して鍛えていく必要がある。

		制の実施		・主に高学年において、理科、図工、体育、外国語等での教科担任制を実施することで、児童がより専門的な指導を受けることができた。
課題教育	特別支援教育	○特別な支援を要する児童に対する共通理解・適切な教育支援・啓発の推進 ○認定こども園・春日中学校・こども発達支援センター等の専門機関との連携	A	・月に一回、教育支援委員会を定例化した。個別に支援を要する児童について、具体的な支援方法や職員の支援体制をその都度検討することができた。また、短期目標を設定し重点的に支援することで、児童の困り感が減り、落ち着いて学校生活を送ることができた。 ・教育課程と連携して、支援員の入り方など柔軟に対応できた。委員会で検討した支援内容を全職員で共有し、実行した。また、支援方法を定期的に見直した。 ・PTA総会・学級懇談会・入学説明会で特別支援教育の啓発をおこない、個人懇談や教育相談で保護者と支援について話しやすくなった。 ・春日中学校と連携して、授業見学会や教育相談日を設定するなど、小中連携ができた。 ・今後、児童の支援方法をフローチャートにするなど、全職員で共有して支援をおこないやすくするためにひな型を作り、支援方法や児童の変容を見える化していく。
	人権教育	○互いの違いやよさを認め合う温かい人間関係や信頼関係を育む学校・学級づくり ○「特別の教科道徳」をはじめ、全教育課程を通じた、規範意識や人権尊重の意識の育成	B	・終わりの会を充実させ「いっしょ見つけ」や「ほめほめシャワー」等でお互いの良さを認め合う場を設け、あたたかみ学級の雰囲気になった。 ・なかよし班での遊びやそうじなど異学年交流の場では、一人ひとりの良さや得意なことが生きるよう活動の仕方を工夫した。2学期からのなかよし班掃除では、学校全体でいいところを認め合う雰囲気の中で、一人ひとりが活躍する場ができた。 ・6年間の人権教育のまとめとしての人権発表会に向けて、各学年の発達段階に応じたあてを決め、人権感覚を培っていった。 ・ジェンダー平等教育を含めた人権教育を、保護者や地域とともに推進した。今年度は、人権茶話会を開催し、保護者と教職員が人権についての話し合いの場を持ち、充実した時間が持てた。 ・教職員の人権感覚を高めるため、職員研修の機会を設けた。夏休みには、「多様性」についての研修を開催し、日頃から敏感な視点を持つことが大切であることが確認された。

3 学校関係者評価

<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度の目標・方針に対して達成状況のとおり、確実に取り組まれている。保護者・児童アンケートからも成果を読み取ることができる。 ・地域全体で児童を育むという方針が、いろいろな取り組みに表れ、着実に根付いている様に思う。特に今年度は、春日部小学校創立150周年をむかえ、運動会では人文字作成を地域の皆様に呼びかけ、多くの地域住民の参加でたいへん盛り上がっていた。地域の皆様の熱い思いが伝わってくるようであった。 ・あいさつは、基本的な生活習慣の一つでもあり、学校・地域・家庭が共に一丸となって常に力を入れたい。 ・読書習慣の会得は長い時間を必要とする。読書が習慣となり、読書の魅力を知ると、生涯にわたって学び続けることができる力を獲得することになると思う。読解力が乏しく、簡単に答えを見つけようとしてケアレスミスも多いように感じる。 ・どの様に人に伝えればいいのかと思う児童も多いのではないかと。言葉の表現の大切さを指導する時間も必要ではないか。 ・学校の取り組みはいいと思うし、先生もいじめ、仲間外れがあると、すぐに動いてくれる。 ・不登校ゼロを目指した取組において、全職員で組織的に支援、関係機関とも連携を図れている。学級は、児童にとって心の居場所である。日々先生方はよくされている。しかし、それが成果として現れないのが残念に感じる。
--

4 次年度の改善の方向性

<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本を確実に身に付けるとともに、「読み取る力」と「伝える力」を一体的に育むよう授業研究に取り組む。 ・読書習慣の定着を目指し、家庭・地域と協力して本に親しむ時間を増やす。 ・一人ひとりの児童の内面理解を深め、いじめや不登校の未然防止・早期発見・早期対応をおこなう。 ・「ふるさと春日部」での多様な体験活動を通して、ふるさとに誇りと愛着を持つ春日部つ子を育む。 ・学校・家庭・地域が一体となって、あいさつ運動に取り組む。 	<p>令和6年 3月 8日 学校名 丹波市立春日部小学校 校長名 大木 修</p>
---	---

